

第19回

羊をめぐり

羊を食べ

羊を考える

昨年、白糠町へ仕事で行く機会があった。ずっと伺いたかった茶路めん羊牧場へ。取材ということで見学させていただいた。ここは広い牧場で、山の放牧地で、羊たちが草を食みながら放牧されている。

羊たちはいくつかに分かれて群れで暮らしている。1頭が動くとそれについて群れが移動するらしく、柵の外ではあったが近づいていくと警戒した1頭が動き出し、他の羊たちもそれについて移動し始める。ちなみにリーダーはいないらしい。最後の数頭はあれ？移動するの？わあ～置いて行かないで～みたいな感じでトコトコと追いかけていく。何せ一緒に群れていたいのだ。そんな羊をのんびり見てるだけで頬が緩む。

この茶路めん羊牧場にはレストランもあり、羊の料理を提供している。大切に育てた羊を無駄なく全てをいただくような羊料理は、白糠の滋味が詰まっている。白糠の海や山、畑で取れた食材が羊と共に一つのお皿に合わせられていて、とてもおいしい。また、食べるだけでなく、羊の毛を使った製品や羊油で作った石鹸なども販売している。羊は衣食住全てに役立つのだ。たぶん人の暮らしは長い間、羊に助けられてきたのだろうと思う。そんなことを考えながら料理をいただくと、とてもありがたい気持ちになった。

私たちはさまざまな命をいただいて日々を生きている。そのことを羊たちに改めて教えてもらった。食の原点を見つめると命のありがたさが滲みる。たまに食の生産地に出かけるとたくさんの気づきがある。これだから、食の旅はやめられないのである。

さて、これを書いているのは3月下旬、新型コロナウイルスで世界中が同じ困難の中にいる。この号の出る5月にはどのような状況になっているだろう？負けずに乗り越える兆しが見えていることを祈りたい。そして、今までのように、いろんな風景や食に出会うために安心して旅に出かけられるようにと心から思う。



すずき もも

イラストレーター・絵本作家/スローフードさっぽろリーダー

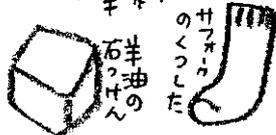
東京生まれ、北海道夕張育ち。広告や雑誌、カレンダーなどのイラストを描くほか、イラストで綴る町案内の本や絵本などを執筆。ほか、「スローフードさっぽろ」を2016年に立ち上げ、食を中心に環境や暮らしの大事に取り組んでいる。著書に絵本「はるとなつ はたけのごちそうなーんだ？」(アリス館)「おいしい大地、北海道」(イースト・プレス)がある。近著に絵本「はたけのごちそうなーんだ？ くだもの」(アリス館)がある。モットーは4つのS。「Simple, Slow, Small, Smile: ささやかに、ゆっくり、ほどほどに、にこにこ」。



レストランワオレ



ぜひ! 羊料理を!



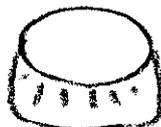
井原路めん羊牧場の
レストランです。

サツマのくつした

白糠酪農舎

本格的なイタリアの

4-ス"か"
いろ"いろ"



ココナツ



モッパアラ

アボカド、ナス、
トマト、オリーブ



たんたか

鍛高譚

町の特産のしそで
仕込んだしそ焼酎

白糠、こ
くいしん坊には
ぴったりの町!

